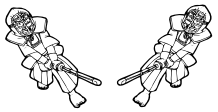
剣風

「剣　風」
題字:細川武敏(41期)筆
ＯＢ会報第16号
平成20年12月1日発行
制作:ｃｂ鼓囃子



特異なものを何か一つ

ＯＢ会会長　阿部祐之(56期)

オリンピックイヤー・二〇〇八年が終わろうとしています。北京オリンピックの成績不振な日本選手団の中で、フェンシング男子フルーレの太田雄貴選手の銀メダルは特筆すべきものではなかろうかと私は思います。日本のフェンシング界にとっても史上初のメダルでもあり、歴史的な快挙とも言えそうです。

このフルーレという競技は〝突きのみの攻撃〟で得点を競う競技です。一七〇㎝と小柄な太田選手が外国選手との対戦ではリーチが短く大変不利な状況にあります。にもかかわらず、世界でも互角に戦えるのは、「ファーント（前進しながら腕を伸ばし切って目標を突く）と呼ばれる基本的な攻撃の速さ」と「剣の速さ」加えて「背中を突く得意技」にあるようです。太田選手のこの三つの特異な技が銀メダルへとつながったようです。

スポーツの分野に限らず、あらゆる芸技能界でもその道なりの特異な技を持つ人達は大勢おりますが、その道程で誰もが口にする言葉は「基礎基本を徹底的に……」です。

確かな基礎基本の習得の上に、その道なり人なりの特異なものが体得されるのだろうと思われます。「特異な技を、特異なものを身につけたい」とは、誰もが願うことですが、その道程は大分遠く、人並以上の努力も必要とされるようです。太田選手の弛まぬ努力が偲ばれます。

本年のＯＢ会活動報告

幹事長　工藤武和(67期)

平成二十年総会は、六月二十八日に例年通り「祥園」にて行われ「宮下杯」「稽古会」三十一名、「総会」二十八名が参加され、楽しく有意義な時を過ごすことができました。

私の同期も四人の参加で全員急遽稽古会に参加となりましたが一名は昔の感覚のままで、「学校の防具を借りて…」とのこと、私は慌てて、娘三人の高校時代の防具を妻に持って来させ身体に合うものを組み合わせて、何とか四人で四十年振りの稽古ができました。

私達の高校時代は防具は交代で使ったのですがその時の面と籠手のヌルヌル感、そしてその強烈な臭いとが脳裏に浮かび、懐かしさひとしおの一時でした。

ＯＢ会運営につきましては、昨年役員を大勢にさせて頂いたおかげで各行事毎に担当を割り当てることができ、大変円滑に進められております。

尚、総会開催日のアンケートの結果をお知らせします。

回答四十六名中、六月が二十七名、八月が十一名となり、六月の従来通りという方が十五名でしたので来年は従来の六月第四週の二十七日土曜日です。

最後に「上田高校ＯＢ連合会」について春のゴルフコンペに剣道班は九人参加で団体二位でした。秋は十月二十五日に開催され、八人の参加で優勝しました。来年二月は剣道班幹事で総会を開催致しますが、またホームページにてご連絡いたしますので多数のご出席をお願いします。

北信越ベスト8！女子団体戦

女子主将　大木智恵

先日福井県にて北信越大会が行われ、上田高校からも男子個人と女子個人、団体が出場しました。決して満足できる結果ではなかった県大会から数週間後に行われたこの大会は、三年生にとっては高校生活最後の、そして一・二年生にとっては自分達の代をスタートさせる契機となる大切な大会でした。特に私達三年生は、今までで最高の力を出し切ろうと決意を固めて臨みました。

予選ではまず、初戦前のミーティングで、全員でする試合を意識してから挑みました。どの県からも強豪校が集まっていたので、一本差、または一人差というギリギリのスコアでの勝ち方での試合ばかりでしたが、だからこそ試合場に入った時の自分自身を上田高校というチームの一員であることを強く感じられ、「全員分の一本」を皆が大切にできたのだと思います。

さらにその後、決勝トーナメントに進んでの初戦の相手は新潟明訓でした。結局、試合には負けてしまいましたが、試合内容としては、皆が一丸となれたすばらしいものでした。いつもは明訓に負けた後は力の差を見せつけられたような悔しさがありましたが、今回はそうではなく、とても「楽しい」試合でした。

最後になりましたが、私達を支えて下さったＯＢ会の先輩方、先生方、保護者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

ＯＢ会に参加して

近藤健太(101期)

一ＯＢとして、毎回ＯＢ会に参加することを楽しみにさせていただいております。

今回は見学させていただきましたが、宮下杯に始まり、大先輩から後輩まで、幅広い年齢層のＯＢの皆さんと現役生との稽古会では、現役生のパワー・スピード感溢れる勢いと、それに負けない大先輩方の熟錬の技がぶつかり、見ていてついつい現役の頃を思い出し、今は剣道から離れてしまっていますが、再び始めたくなりました。

また、ＯＢの大先輩方におかれましては、日々の稽古の様子が想像できる程、お年を感じさせない活気に満ちており、私も将来こういう元気なＯＢでありたいと思い、それにはまず剣道を続けることだと感じました。

夜は祥園にて、総会と懇親会が行われました。近い代のＯＢはいなかったので、私は先輩方のテーブルに入らせていただきました。

初めは緊張していましたが、いざ懇親会が始まると剣道の話に華が咲き、稽古会で感じたこと、現役生の様子、昔と今の剣道の移り変わりなど、年齢・世代を越えて熱く楽しく語り合うことができました。話をしていて一つ気付いたことは、上田高校の剣道は大先輩方の時代も私たちの時代も、基本に則り中心を取った正々堂々の剣道であること、これが伝統になっていると感じました。現役生には是非この伝統を貫いてもらいたい。それと同時に、ＯＢである私は、その伝統を伝え続けていかなければいけないと強く感じました。

正月に行われる懇親会では、同期や近い世代が集まるので自然とそちらの方に意識が向いてしまいがちですが、失礼ながらも大先輩方と腹を割って剣道や仕事の話ができ、勉強になることが多くありました。これはＯＢ会の醍醐味だと思います。今回は今までになく楽しく充実したＯＢ会で、もっと多くの方とこの時間を過ごしたいと思いました。

試百難

宮沢伸彦（74期）

この度、幹事の方よりご依頼がありましたので近況報告をさせて頂きます。

上田高校卒業後、群馬大学医学部に入学、直ちに剣道部に入部し、六年間で医学部の団体戦で二回優勝、準優勝一回し、最後の年には全学の大将で関東学生選手権に出場、二十六歳で五段を取得しました。山梨大学医学部脳神経外科に入局し、脳神経外科で手術に明け暮れる日々を送っていたため剣道は殆どしませんでした。モントリオールに二年間留学した際にモントリオールとトロントで現地の剣道家と稽古を楽しんだくらいでした。体の衰えを感じ始めた二〇〇〇年からマラソンを始め、フルマラソンを三時間五〇分で完走したあとから、居合道を始め、二段まで取得しました。二〇〇四年には現職であるＰＥＴセンター（犬・猫病院ではありません）に勤務、認知症と癌の診断に携わるようになり、脳神経外科部門の時よりやや時間がもてるようになった二〇〇六年、剣道部戦後創部五十周年の記念稽古会があると聞き、山梨剣道連盟で稽古を再開しました。

稽古会では羽田先生、飛田先生、宮坂先生にお会いできとても感激しました。この稽古会で剣道の楽しさを再発見し、その後も山梨で稽古を積み、二〇〇八年五月、三回目の挑戦で合格率一〇％の六段に昇段することが出来ました。

現在はＰＥＴ（陽電子放射断層撮像装置）を使って脳の循環代謝状態、アルツハイマー病の画像診断、癌の局在診断等に携わっていますが、時には脳神経外科の手術を手伝ったり、脊髄外科及び認知症外来を担当しています。専門医としては脳神経外科、脳卒中、核医学、ＰＥＴ核医学、癌検診学会を取得し、現在、認知症学会の専門医に挑戦中です。

昨今の日本では脳卒中より、癌で亡くなる方が多く、早期診断が重要であることが言われていますがまさにそれに役立つのがＦＤＧ（投与する薬）-ＰＥＴであり、また、さらに癌より社会問題となっているアルツハイマー病（認知症の一種類）を早期に診断できるのもＦＤＧ-ＰＥＴであります。携わっている仕事に充実感を得ているのと同時に責任の重さに身の引き締まる思いで日々精進しています。

その傍ら剣道は週に一・二回甲府の刑務所、山梨剣道連盟の剣道場で稽古しています。山梨には八段の先生が八人居られ、また、中央から講師を招いた講習会も多く開催されるため稽古環境として恵まれた中で練習させていただいております。

また、六年後には七段へ挑戦しようといきまいているところですが、最近五十歳を過ぎ、なぜ剣道をするのか、またなぜ再開したのかを考えるようになりましたがなかなか答えが見つかりません。

しかし、一つには先輩方、後輩諸君とともに稽古ができ、後輩の剣道練習活動を陰ながら応援できることが剣道を続けている理由のように思えてきました。

現在は挙世の浮華に迷っているばかりですが、剣道を今後も続け襲い来る百難に挑んでいきたいと思っています。

剣道今昔

今

男子は昨年度の新人戦で準優勝し、今度こそ優勝をと目指したインターハイ予選でした。準々決勝での敗退という残念な結果でしたが、最終的に優勝したチームを大将戦の崖っぷちまで追い込んだ上田の底力は賞賛に値すると思います。女子は快進撃を見せました。東信大会の準決勝、決勝の大逆転劇、県大会での昨年度の選抜出場チームを一蹴する勝利。結果は３位に終わりましたが、その後の気持ちを切らすことなく臨んだ北信越大会では、地元福井のインターハイチームを倒し、本校女子チームとして初のベスト８入りを果たしました。決勝トーナメントの新潟明訓戦は一歩も引かずに戦い、最高の試合を演じました。新チームも目標は「全国への挑戦」です。変わらぬご支援ご指導をお願いいたします。

顧問　神津（77期）

平成19年度北信越高等学校剣道大会(2/9.10)
　男子団体　1敗1分　（予選リーグ）

平成20年度戦績

第17回長野県ジュニア強化練成大会(4/27)
　女子団体　3　位
三条杯剣道大会(4/27)
　男子団体　1回戦
第４回謙信公杯争奪高等学校剣道大会(5/4)
　男子団体　ベスト16　　女子団体　ベスト16
第143回東信高等学校総合体育大会(5/10.11)
　男子個人　清水貴茂　6　位　矢嶋泰介　8　位
　男子団体　3　位
　女子個人　竹内　澪　4　位　大木智恵　5　位
　女子団体　優　勝
平成20年度長野県高等学校総合体育大会(6/7.8)
　男子個人　清水貴茂　5　位　矢嶋泰介　２回戦
　男子団体　ベスト８
　女子個人　大木智恵　3　位　竹内　澪　２回戦
　女子団体　3　位
平成20年度北信越高等学校剣道大会(6/21･22)
　男子個人　清水貴茂　１回戦
　女子個人　大木智恵　２回戦
　女子団体　ベスト８
剣道班ＯＢ会・第６回宮下杯（班内個人戦）(6/28)
　男子個人　清水貴茂　優　勝　大木孝弘　　準優勝
　女子個人　清水香那　優　勝　深町さや香　準優勝
平成20年度東信高等学校剣道選手権(7/21)
　１年男子　下形将央　優　勝
　１年女子　三井　祐　優　勝　小林由佳　3　位　滝沢美保　3　位
　２年男子　福澤　敬　3　位
平成20年度上小高等学校剣道リーグ(7/27)
　男　子　　優　勝　　女　子　　優　勝
第23回蒼龍旗争奪剣道大会(8/17)
　男　子　　３回戦　　女　子　　ベスト16
第２回真田幸村杯剣道大会(9/14)
　女子Ａ　　優　勝　　女子Ｂ　　3　位
第34回東信青少年剣道大会(9/28)
　男　子　　優　勝　　女　子　　3　位
第144回東信高等学校総合体育大会(10/25･26)
　男子個人　下形将央　3　位　男子団体　2　位
　女子個人　清水香那　2　位　三井　祐　5　位　小林由佳　8　位　女子団体　優　勝
平成20年度長野県高等学校新人体育大会(11/15･16)
　男子個人　下形将央　ベスト８　男子団体　準優勝
　女子個人　清水香那　優　勝　三井　祐　ベスト16　小林由佳　初　戦
　女子団体　ベスト８

昔

昭和三年度校友会誌より

前半略

八月一日　全國中等學校青年團劍道爭覇戰に出陣。遠く近畿、奥羽等の猛者が多数來戰した。實に勇壯絶偏、見る人は皆手に汗を握らざるはなしといふ有様。吾等は善戰の功空しく第二回戰に敗れてしまった。

敵は昨年第二位のチーム、卒業生在校生の合體チームである。だが吾が選手は正々堂々よく戰った。しかし功空しく遂に敗れた。敗因は一に試合馴れせぬ事にある。斯くして八日には歸郷。

略

十一月四日　お、再び時は來た。雪辱の絶好機が到來した。今度こそは優勝と偉大な覺悟を持って望む。即ち上田蠶絲專門學校主催近縣中學校劍道大會が開かれたのである。第一回戰に長工と當って喜んで居た所長工は棄權してしまった。準優勝戰には小商と當る。

準優勝戰

上　中　3-2　小　商

大接戰の後、遂に前日の雪辱をする。

優　勝　戰

上　中　3-2　須坂中

又々大接戰の後遂に凱歌を奏した。しかし吾々は喜ぶ事が出來なかった。敗れた者の心は敗れた者だけが知るのである。敗れた敵を思ふと喜び騒ぐ事も出來なかった勝つなら何故松本で勝てなかったのか？　今更運命の皮肉を恨んだ。

昭和四年一月六日　永らく劍道部に御盡力下さった落合先生が靜岡縣の方へ御轉任なされたので吾々心ばかりの送別會を開く。

一月十一日――二十二日　午前六時半まで二期に分けて寒稽古を行ふ。

一月二十二日　校内武道大會を開く。

附記――近年青年の思想薄弱となり、尚武の風の衰へたのは誠に遺憾な事である。我が劍道部助手はこれを痛嘆し本年より三年以下のクラスマッチを行ひ、漸次擴張し健實な思想を養ひたいと願って居ります。希くは諸先生諸先輩諸兄には吾等が意を諒とせられ何とぞ御助力下さるやうお願ひ致します。

（山崎義男）

OB座談会『ジャーナリスト編』

【司　会】
今回はマスコミで働く卒業生の話を聞きたいということで、いずれも昭和五十六年卒で、地元の長野放送（NBS）に勤務する小宮山弘君、信濃毎日新聞社に勤務する伊藤隆君に顔合わせしてもらいました。司会の私を含め同期としてお互いに近況などをざっくばらんに語っていただきたいと思います。まず、現在はどのような仕事に携わっていますか。

【小宮山】
本社の営業部と営業推進部を兼務しています。営業部では民放の収入源であるスポンサーとの折衝がメインです。「この番組はご覧のスポンサーの提供でお送りします」というコメントを耳にしたことがあると思います。テレビにはこのタイム提供収入と、キャンペーンごとにCMを流すスポット収入とがあり、日々スポンサー回りと広告の立案に携わる広告代理店回りをしています。営業推進部ではスポンサーのマーケティング支援、販促支援などさまざまなイベント企画の立案・実施をしています。管理職なので、現場からの情報を円滑に社内調整してスピーディーにフィードバックさせるのも重要な作業の一つです。

【伊　藤】
今年四月に諏訪支社へ転勤し、諏訪地方六市町村の出来事を日々追いかけ、新聞紙面に記事を書いています。私も管理職として、主に外回りの一線記者が書いた原稿のチェックをはじめ、連載を企画したり、取材先とさまざまな折衝をしたり、といったところでしょうか。それまでは本社の報道部という部署で「デスク」と呼ばれ、社内記者の原稿のほかに東京の通信社から送られてくる配信記事を取りまとめながら紙面を作る仕事をしていました。社内には松井一明先輩（74期卒）もいて、前の職場で一緒でした。

【司　会】
一口にマスコミ、マスメディアといっても多様だと思いますが、どのような世界ですか。

【伊　藤】
新聞社の場合、編集部門、広告・販売部門、社全体の技術管理をする制作部門、新聞の印刷工場のほか、イベントの企画・主催や出版、インターネット関係などいろんな部署があります。私は入社以来、編集の報道で仕事をしていますが、こういった各部門の歯車がしっかりかみ合って新聞が出来上がっているんです。毎日情報を伝える活字媒体というのが新聞の最大の特徴ですが、最近はインターネットが普及する中で、若い人の活字離れが指摘されていますね。各世代に愛読していただくため、より読みやすく、分かりやすくという観点で紙面を作りながら、絶えず新しい企画を考えています。

【小宮山】
テレビ局もいろいろ職種があります。番組全体をプログラムする編成局、ニュースの報道局、番組の制作局、イベントの事業局、電波を送出する技術局、広告をとる営業局、と基本的には新聞社と一緒です。すべての車輪が同じスピードとベクトルで回転して成り立っています。ところで「地デジ」って知ってますか？地上デジタル放送のことで、世界の潮流ってことで日本でもデジタル化が国策として実施され、二〇一一年七月二十四日に今のアナログ放送が終了します。デジタル放送は鮮明な映像が売りですが、双方向機能や録画機能の充実などたくさんのメリットがあります。皆さん、お早めの買い替えをお勧めします。

【司　会】
仕事柄、いろんな分野の人に会って話を聞く機会が多いと思いますが。

【伊　藤】
新聞記者は政治・経済、事件・事故、社会現象、文化、スポーツ等々、ありとあらゆる取材対象の動きを、いち早く紙面で伝えるのがまず大きな仕事ですね。一方で、日々の暮らしの話題も欠かせません。ある人が一冊の本を自費出版したとして、その陰にさまざまなドラマがあったりする。それを伝え、読んでいただくことで、また新たな人と人のつながりが生まれたりもする。政治や経済の最新情報のほかに、そうした街ネタも通じて読者に媒体として活用していただく。材料は尽きないわけです。毎日いろいろな場所に顔を出して信頼関係を築き、情報を集め、どう伝えるか考える。とにかく地味で愚直な作業の積み重ねが大事ですね。

【小宮山】
全くそのとおりで、毎日の積み重ねの大事さは何事にも共通していますね。スポンサーから信頼を得て広告を出稿していただくのも、所詮は個人対個人の不断のコミュニケーションが基本です。言葉とか心のキャッチボールの繰り返しが大事なんですね、この業界は。企業のトップにお会いする機会が多いのですが、相手が相手なだけに、こちら側の引き出しもいろいろなものを持っていないと話にならない。それには好奇心や日々の情報収集が不可欠です。時代はデジタルの流れですが、実際は超アナログ的な仕事です。

【司　会】
それぞれ今の仕事を選ぶきっかけは何だったのですか。

【小宮山】
長男ということもあり、ただ漠然とUターン就職かなって。ミーハーな自分は放送業界にでも行こうか、キレイなアナウンサーにも会えるし、っていう軽い気持ちでした。お恥ずかしい限りです。

【伊　藤】
正直なところ就職試験の時期まで何をしたらいいのか迷っていました。ただ、新聞はいつも図書館で目を通していて、雑誌も好きで、何かそんな世界に入れたらな、という思いがあったような気がします。

【司　会】
共に剣道班で三年間を送った日々は、現在に何かの形で生きていますか。

【小宮山】
それはもう当然です。当時の仲間とは皆、それぞれ進む道は違っても根は一緒。会えばアッという間にあのころにタイムスリップしてしまう若返りの魔法の薬ですよ。私は大学でラグビーを始めました。礼に始まり礼に終わる剣道からAll for one One for allのラグビーへと。人格形成の上では個人も団体競技も一緒でした。ストレス社会の中にあって心が折れそうな時、あの時の練習の苦しさはこんなもんじゃなかったぞ、って今でも自分を鼓舞する精神的な支えになっています。社会人になって思うのは精神力（芯）の強さなんですね。

【伊　藤】
私もやはり古い道場で共に過ごした仲間がいることが大きいですね。会う時はいつも心のリセットといった感じでしょうか。去年も、JRに勤める同期の柳原昭治君が長野マラソンでサブスリー（3時間切り）を達成したことには刺激を受けました。本当に地道な長い積み重ねが要りますからね。実は私もウオーキングを始めて、今はたまに諏訪湖の周りでジョギングをすることがありますが、高校時代の合宿とか、生島足島神社まで走ったこととかを思い出すんです。仕事とはまた別の部分で、当時の自分たちと常にどこかで向き合っている気がします。

【司　会】
三人から紙面を通じて現役生の皆さんに大いにエールを送ろうと思います。本日はありがとうございました。

【出席者】
小宮山　弘
（79期・長野放送営業部長兼営業推進部長）
伊　藤　隆
（79期・信濃毎日新聞社諏訪支社長）
宮　崎　浩（司会）
（79期・長野県下高井農林高等学校教諭）

東御市文化会館・サンテラスにて

清水カヨ子（80期）

現在、遅まきながら二児の母。二人の子供等は、どう誘っても剣道はやらぬと首を横に。既に他界した父親との数少ない会話の記憶「剣道の防具は臭い」という軽口を拠所とし、二段の母に抵抗を続ける。二段と言っても今は昔。

さて、亡き夫は建築士。軽口のお陰で剣道からは遠ざかった。しかし、偶然とは妙なもので、私はこのほど東御市文化会館・サンテラスに身を置く事になった。このサンテラス、隣接の東御東部中学校と併せ、名実共に亡夫の遺作なのである。朝、もう一つの遺作・自宅の窓から、サンテラスと中学校舎を眺め渡し喫茶部へ向かう。

文化会館・サンテラスという環境の中、生きたままの「突然変異」。そこで私は、人生でもありえないはずの日常を過ごす。駒大の体育会にまで所属して剣道を続けた私である。

就農宣言し米や花を作る私である。何よりも音楽・芸術・そして食事のサービスなど、今まで無縁で、苦手としてきた私だ。これが突然変異でなくてなんであろうか。

サンテラスでは、音楽プロのスタッフや芸術家達に完全に「包囲」され、さらに信じ難いことにクッキーを焼き、ゼリーを飾り、コーヒーを入れている。時々、舞台アナウンスやフロアマネージャーの真似事もせねばならない。

母も変異だがまた、環境とは恐ろしいもの。子供等はホール舞台で楽器を奏し、リハーサル室でヒップホップを踊る。この三月に催される舞台音楽劇に出演し劇の中でひと踊りするらしい。

話は横にスベルが、昨年当欄に投稿した「劇団TOKYO　BOWZ」の宮原千恵子様といつか巡りあわせることがあるかと心から期待をしている。

甘い香り漂い、異国語同然の音譜♪での会話が飛び交う空間で、子等が小学校から帰るまでコーヒーを供す。すでにサンテラスの主の様な顔をして…（笑）。

もう何年かすると朝「自宅」を出た子等が、「中学校」の部活を終え、私の居る「サンテラス」に帰ってくる。ならばサンテラスに腰を据えてみよう。「皆様ようこそ！東御市サンテラスにてお待ち申し上げます。」

「現役生の声」

班長　清水貴茂（3年）

上田高校剣道班の一番の武器は県内のどの学校よりも強いチームワークだと私は思います。私たちが手本としてきた先輩方もそうでした。そして、私たちもチームワークを一番の武器として一年間戦ってきました。正確に言うとチームワークだけで勝ってきたと言っても過言ではないくらいだと思います。

私たちの代は中学時代から名の知れた選手は一人もいず、最初の頃は辛いことばかりでした。それでも仲間どうし支え合い、厳しい稽古を乗り越え、休みの日には声を掛け合い自主練習も積極的にやってきました。それでも勝てるようになることは簡単なものではありませんでした。試合に行けば負けて帰ってくるというのが常でした。

ただ、私たちはあきらめたことはありませんでした。次こそは勝とうと、みんなで励まし合い切磋琢磨してきました。また、私にとって仲間と同じくらい大きな存在だったのが、私たちが二年生の時に上田高校に来られた神津先生、竹内先生の存在でした。

一年の時、先生がいない中、先輩方を中心に自分たちだけでやっていた私たちにとって先生の存在は大変大きなものでした。

稽古時は、先生方も私たちに全力で稽古を付けてくださいました。そして、先生方との辛い稽古を乗り越えることで私たちはいっそうチームワークを強くすることができました。最終的に私たちが県内でも通用するようになったのは、仲間や先生といった信頼できる人がいたからこそだと思います。

このチームワークをこれからも上田の武器として大事にしてほしいと思います。

宮下杯　優勝者

男子　清水貴茂（3年）

私にとっては三度目の宮下杯でした。一年目、運よく決勝まで上がれた私でしたが、当時三年生だった山浦先輩に力の差を見せつけられ二位、二年時は決勝に上がることすらできず三位に終わってしまいました。

そして、今年、一年生から三年生までレベルが今までになく拮抗している中、一回戦から大変難しい試合ばかりでした。その中でも気合の入り方が違ったのは準決勝であたった同学年の田村君との試合でした。三年間ずっと競い合ってきた仲間の一人で誰よりも負けたくないという気持ちはありました。その田村君にも辛うじて勝ち、二度目の決勝へ上がることができました。相手は一年生の大木君。一年目の自分に重なるところがありましたが、力の差はあまり大きくありませんでした。彼の積極的な剣道は、私の一年目とは大きな違いがありました。

優勝することはできましたが、一、二年生の成長をこの大会では強く感じることができました。これからの彼らに期待したいです。

女子　清水香那（3年）

先日の宮下杯では沢山のOBの方々に来て頂き、あの様な試合ができた事を有り難く思います。そして、伝統ある宮下杯で優勝できた事がとても嬉しいです。

世代交代をし、新しい代となった今、男女共に九人という例年に比べて少ない人数ですが仲間と共に励まし合い、切磋琢磨し、成長していきたいです。

今回のOB会で私達上田高校剣道班は、OBの方々の支えがあってこその班活なのだと改めて実感しました。支えて下さる方々に良い報告ができるよう、頑張っていきたいと思うので、これからも応援宜しくお願い致します。

大学剣道体験記

「十一年年目の剣道」

柳田晃一郎（104期）

「体が弱いから」と小学校四年生から始めた剣道も今年で十一年目となりました。飽きっぽい性格の私がここまで続けられたのも剣道を通して人のつながりと奥深さが大きいのではないかと思います。

現在、国際武道大学にて全国の猛者たちとともに稽古に励んでおります。また、トレーナー（ケガの予防や応急処置、選手のコンディショニングのサポートと自己管理能力・パフォーマンスの向上を目的としたスタッフ）としても活動しています。

私の大学の特徴は、留学生も交え稽古をしていることだと思います。その中でも、私が一年生のときに交流を深めたカルロスさんとの出会いは特別なものでした。一年間で国へ帰ってしまったカルロスさんが「カナダへ来て一緒に稽古しよう！」と私を誘ってくれました。そして昨年、幸運にもカナダを旅することができました。

約一ヶ月のカナダでは六つの道場を回り親子二代で指導をする鎌田さんや、養心館の朝岡先生、"Happy　Kendo"をモットーにするマギル大学の学生とドランシュビル先生。老若男女、刺青入りの若者までまとめあげるおじいちゃん先生と多くの方と出会い剣を交え、「自分にとって剣道とは何か？」を見つめ直すよい機会になりました。どこに行ってもあたたかく迎え入れてくれたことに感動しました。特に練習後に仲間と飲んだビールの味は最高でした。

最後に、広い世界を見るチケットをくれた剣道に、そして、カナダ行きをサポートしてくれ、今もなお支え続けてくれている両親にはありがとうの気持ちでいっぱいです。

さて、話は変わりますが先日、上田高校剣道班の同期とともに酒を酌み交わす機会がありました。その席ではそれぞれの近況から、将来への不安、迷い、恋の話と尽きることがありません。しかし、最後には、こうして一緒にバカ話から、まじめな話までできる仲間に出会ってよかったと、上田高校剣道班の仲間って最高だな。いや、最高って言葉じゃ言い表せないぐらいだなと思ってしまいます。そんな仲間のそれぞれの人生に幸あれと願いながら私の体験談とさせて頂きます。

最後に、このような機会を与えてくださった仁木先生に改めてお礼申し上げます。

「大学生活と剣道」

長谷川勇太（104期）

皆さんこんにちは。一〇四期主将を務めさせて頂いた長谷川です。今回は、私の大学生活と剣道に関して近況報告させていただきました。

私は現在神奈川県の防衛大学校の第三学年です。防衛大学校というのは将来の幹部自衛官を養成するための大学であり、授業料や衣食住にお金が全くかからない上に毎月給料も支給されます。そのかわりに、全寮制で生活の制限も多く、普通の大学の勉強に加えて訓練や防衛学といった分野の勉強も必要でなかなか変わっているところです。訓練では実弾射撃や戦闘訓練なども行ったりしています。

さて話を剣道に移しますと、防大剣道部は四年生が引退し、総勢五十五名で、剣道八段である田島先生をはじめとする先生方のもと毎日練習に励んでいます。現在私は副主将となり、今まで以上に色々と考えながら頑張っている毎日です。大学に入って一番驚いたことは、大学剣道のレベルの高さでした。まず普段の稽古では、田島先生との稽古においては打たせてもらっているところ以外では未だに全く打つことができません。試合においても一回戦や二回戦の段階から強い相手ばかりで、一つ勝つことも本当に難しいです。それでも全日本出場に向けて部員一丸となって頑張っています。OB会などの際にいい報告ができたら幸いです。

あと一年間ですが死に物狂いで燃えて生きたいと思います。今回は貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

OB会ホームページ http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/

祝　速　報

県高校新人大会

男子団体　準優勝（北信越大会出場）

女子個人　優　勝　清水香那さん

来年度のOB会は6月27日㈯です。

新年会のお知らせ

日　時　一月二日　午後六時

会　場　ささや

当日は午後三時より上田高校第二体育館にてOB・現役生合同稽古会を行います。

問い合わせ先　幹事　小林哲広（103期）　090-4230-6635

●会費納入のお願い●

会費（三千円）納入は…三月三十一日までにお願いします。

○連絡先変更の方は幹事長までご連絡をお願い致します。

幹事長　工藤武和
☎ 0268-38-2886
〒386-1212　上田市富士山三三九-一
E-mail:kudou@jpe2000.co.jp